LRP レポート

Let's Read Project

2013

和光大学附属梅根記念図書・情報館
Let's Read Project 2013

LRPルームは、図書・情報館2Fです。
「開室中」であれば、メンバーが中にいますので、気軽に声をかけてください。

LRP レポート Let's Read Project 2013
2014 年 3 月 20 日発行
【編集】『LRP レポート』編集委員会 【発行】和光大学附属梅根記念図書・情報館
〒 195-8585 東京都町田市金井町2160 TEL:044-989-7494 FAX:044-989-2250
デザイン 木下 弥

Contents

はじめに 2
厳選 POP 3
LRP2013年度活動報告 4
新聞「Counter」10号／「新入生歓迎本棚」 5
Travel with Book 2013「異界本棚」 6
代官山蔦屋書店見学ツアー 7-8
新聞「Counter」11号 9
「ミステリー本棚」&「挿絵本棚」 10
「これが、わたしの歩む道 2013本棚」 11
第７回　選書ツアー 12
ビブリオバトル報告 13
番外編 Pick Up Book 14-16
LRPプロフィール 17-20
2013年度を振り返って 21-22

Let's Read Project

はじめに

Let's Read Project（以下 LRP）は本を読むこと、その楽しさを他者と共有することを目的として 2008 年度に発足した。主な活動内容である本棚企画、選書ツアー、図書館見学や書店見学に加え、本好きならではのビブリオバトルも行っている。

2013 年度、恒例の本棚企画『Travel with Book』では「異界」をテーマとしたものを企画した。加えてジャンルを 6 つにわけミニポスターを各自作成。それぞれの個性がみえる面白いポスターが集まった。

夏に行われた代官山蔦屋書店での見学ツアーは、和光の卒業生でブックコンシェルジュの間室道子さんにお目にかかり、大変貴重な時間となった。本だけではなく書店についての理解もぐっと深まる結果となった。

11 月には久しぶりのダブル本棚が企画された。年度末にも新たな企画が追加されるなど、慌ただしいながらも無事成功に終わることが出来て嬉しく思う。

LRP 開始から 6 年目にあたる 2013 年度の LRP 活動内容は、前年度に比べるとやや物足りなく感じるかもしれない。しかし一つ一つの企画には本好きの熱意があった。今年は新入生の加入もあまり多くみられなかったが、やはり一人ひとりの本好きの熱意には強い感銘を受けた。本の素晴らしさを広めていくこと以外にも本を通して生まれる出会いが Let's Read Project の真髄であると私は思う。

芸術学科２年　セーラ

厳選！POP

今年も、数々の企画本棚を行う中で、本に添えるPOPも力作が集まりました。厳選したPOPをご覧ください。

「残り全部バケーション」

背景がコッてる Σ d(ﾟДﾟ*)

「リンの谷のローワンシリーズ」

カラフル (ﾟ∀ﾟ) ルンルン

「不思議の国のアリス」

シャレおつ！
(｀・ω・´) キリ

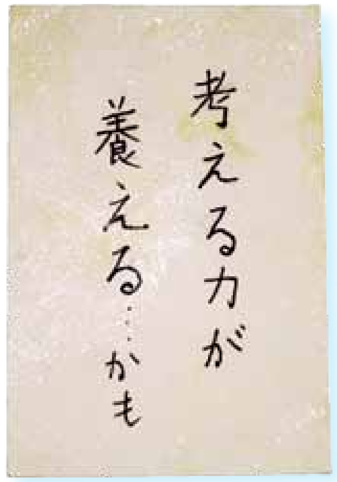
「向上心について」

本の形になってるよ (- ω - *)

「鏡の国のアリス」

（ようこそ鏡の国へ＜左右反転＞）
The ☆ 女子力

「世界から猫が消えたなら」



キラキラ (*´∀｀*)

「宮沢賢治幻想紀行」

大きい帯だお ((*´ω｀*)
マスキングテープの使い方　神！

「チマチマ記」

ネコ=イ・ヤ・シ(´ω｀)

「食文化とおもてなし」

オリンピック楽しみですね (＾ω＾) ノ

LRP　2013年度　活動報告

- 4/25（木）新聞『Counter』第10号発行
- 4/26（金）「新入生歓迎本棚 2013」公開
- 7/11（木）「Travel with Book 2013 ―異界本棚―」公開
- 8/6（火）　代官山蔦屋書店見学ツアー
- 10/3（木）新聞『Counter』第11号発行
- 11/1（金）「ミステリー本棚」「挿絵本棚」公開
- 1/9（木）　「これが、わたしの歩む道 2013 本棚」公開
- 3/7（金）　第7回　選書ツアー開催

4/25 新聞「Counter」第10号 発行

2013年2月、紀伊國屋書店で開催された「選書ツアー」の様子や、おなじみの連載記事など、今回も盛りだくさんの内容です。

第10号から オススメの 記事を抜粋

LRP絵本箱
「月とマーニ」ポプラ文庫
三島由紀子「しあわせのパン」巻末特別付録

映画化もされた「しあわせのパン」の作中に登場します。北海道洞爺湖の静かな町・月浦にパンカフェ「マーニ」を営む水縞夫妻の物語。奥さんのりえさんが子供の頃から親しんでいる絵本として「月とマーニ」登場します。ある晩少年マーニが自転車を走らせていると痩せ細った月は彼に言います。「マーニ、月をとって。一緒に空にいるととってもまぶしくって。」と。それに対してマーニは月に語ります。「太陽をとると君がいれなくなる、それに夜道を歩く人が困っちゃうじゃないか」と。マーニは月に対して自分も、太陽もどちらもかけてはいけない存在であることを諭します。幼いころのりえさんはこの絵本に出会って以降,「私にとってのマーニ」を探し続けます。僕はこの映画を観てからこの絵本がほしくなりました。実はこの絵本もともとある絵本ではないんです。映画の登場に合わせて作られたものなんです。映画化に合わせて文庫化された小説の巻末に映画版より少し小さめな「月とマーニ」が収録されています。個人的にはマーニと月が寄り添うシーンがお気に入り。（総合文化学科4年　おっぽ）

私と映画と本と…
ヘアスプレー

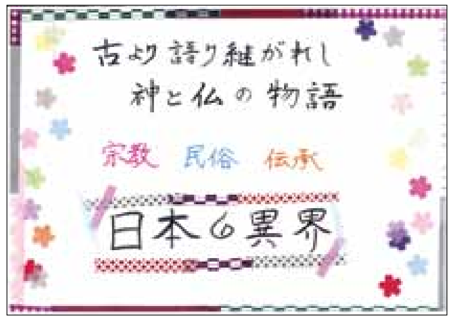
監督アダム・シャクマン
2007年制作。元はブロードウェイ・ミュージカルだったものを映画にした作品。
1960年代のアメリカを舞台に、人気テレビ番組の出演を夢見る、ニッキー・ブロンスキー演じる少しおデブな女の子レイシーと、周囲の人間模様をコミカルに描いている。
それだけでなく、当時アメリカで色濃く残っていた黒人差別にも焦点を当てている。良いものは白人黒人関係なく取り入れるべきと考えているトレイシーと、強く黒人差別に反対する人々。
対立した先にある未来は明るいものなのか、暗いものなのか。
歌って笑えるシーンもあれば、しんみりとしたシーンも織り交ざっているこの作品。数あるミュージカル映画の中でも評判高く、オススメです。
（芸術学科4年　みつこ）

4/26 毎年恒例「新入生歓迎本棚 2013」公開

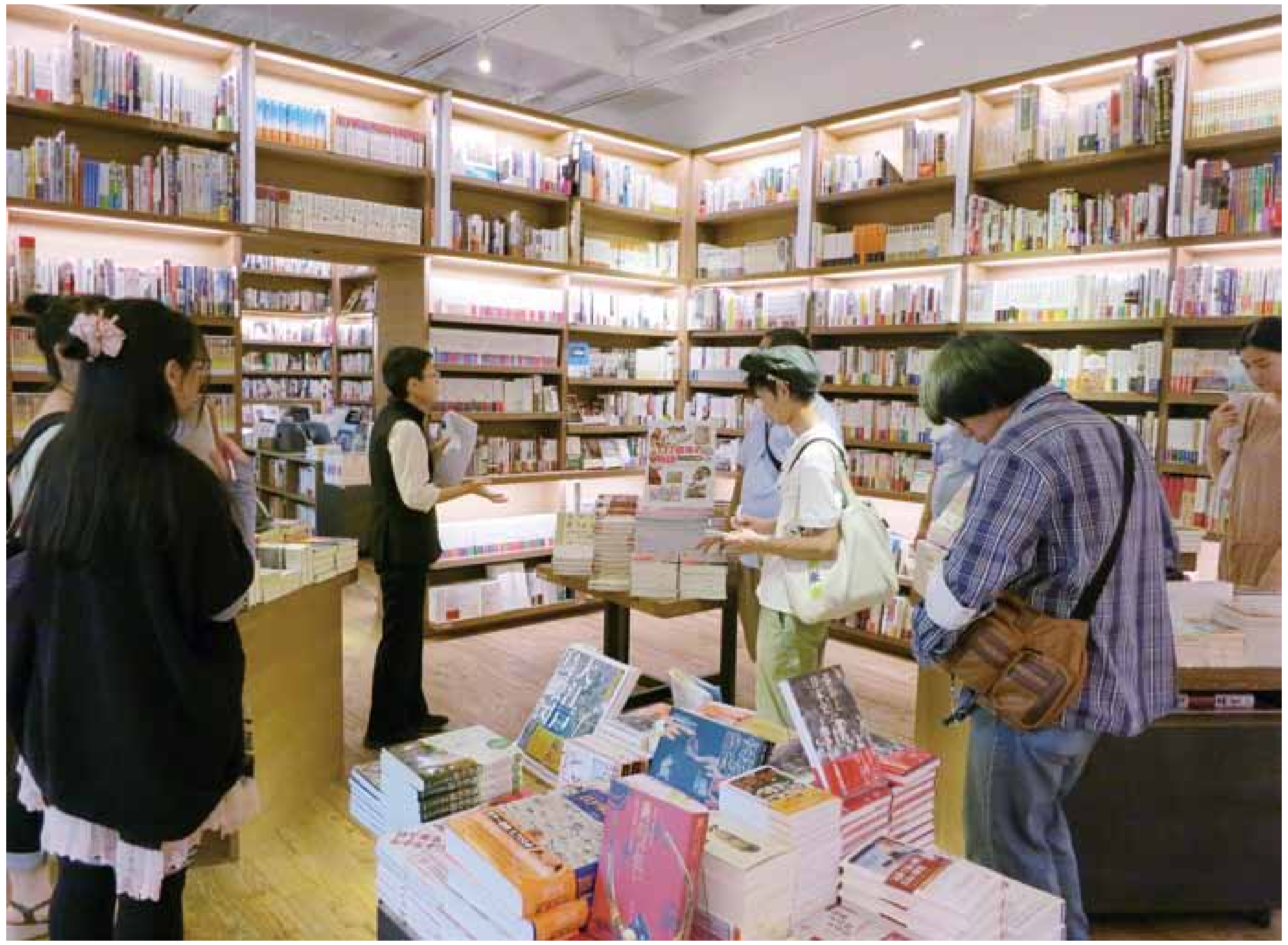
昨年度末の春休みにLRP学生メンバーで「選書ツアー」を行い、購入した本にPOPをつけ、展示しています。今年もいろいろな視点から新入生歓迎のための本が揃いました。

7/11「Travel with Book 2013 ―異界本棚―」本棚公開

本は、時に私たちを非日常という異界へいざなってくれる…ということで、毎年恒例のTravel with Book。2013年度は異界がテーマ。
ＳＦ・ファンタジーなど、フィクション上での異界、深海など地球上の未開の地、国内外のさまざまな祭りなど…
この夏、不思議な世界へみなさんをご案内します。
６つのテーマに合わせたミニポスターも合わせて展示しました。



8/6 代官山 蔦屋書店見学ツアー



2013 年度の夏の見学ツアーは、代官山蔦屋書店に行ってきました。

この代官山蔦屋書店は、２フロア３館の構造になっています。各フロアに「人文・文学」「ビジュアル」「暮らし」等のコンセプトを持たせ、全体としてはプレミアムエイジ（60 代以降の世代）がゆったり過ごせる場所を目指しているそうです。

そして、今回の目玉は、こちらでブックコンシェルジュとして勤務する間室道子さん。実は、和光大学の卒業生なんです！

今では当たり前となった、書店での手書きの POP は、何を隠そう、間室さんが草分け的存在なのです。雑誌などで書評の連載をされ、「文学」のフロアに“間室コーナー”を持つ間室さん目当てで来店されるお客様も多いとか。

当日は、間室さんの案内で、店内を見学後、バックヤードにお邪魔して、間室さんへの質問タイムを行いました。本を読むことの奥深さ、本が売れないといわれる時代の書店の役割等、短時間ではありますが、とても濃密な見学ツアーでした。

メンバーの感想

こうやって間室さんと一緒に蔦屋書店を回れたのも LRP のおかげです。初めての蔦屋書店でしたがやはり間室さんの熱を直に食らいました。本に対する熱量が違いました。本当にありがとうございます。（原稿中）

新しい本屋のありかたを見られた気がします。「一日中いられる場所」というコンセプトで、喫茶店や読書スペースがありました。太陽の光を取り入れるために、外壁をガラスにしたりと様々な工夫をしていて、とても居心地のいい場所でした。和光大学の先輩である間室さんの説明や話も面白かったです。（義経）

代官山蔦谷書店の魅力は、まず本にある。しかし、それだけではない。本の合間に雑貨が置いてあるのだ。例えば、動物の写真集の隣にペンギンの形をしたかわいらしい付箋があり、車の特集コーナーには特殊車両のプラモデルが見える。他にも手ぬぐいや花火（!）、カキ氷用のお皿（!!）など、季節を感じる品物から、高級万年筆や絵画など、学生ではとても手が出せないような価格のものもある。置いてある商品が「本だけではない」からこそ、まるで「探検」をするように店内を歩くことができる。これがとても楽しいのだ。

今回のツアーを案内してくださった間室道子さんは、日本屈指のカリスマ書店員である。しぐさの一つ一つから、心から本屋で働くことに生きがいを感じ、誇りを持っていることが伝わってきた。

「本が売れない理由」について伺ったときに、「本はやっぱり重いものだから、何冊頼んでも自宅に届くネット書店が便利だと感じるはず」と明快にお答えいただいた。しかしその後に「世の中には“本屋が好き”という人間がいる。その人たちに、いかに『魅力的な本屋』という『空間』を提供するか、が本屋存続のカギではないか」と仰っていた。

本屋にも希望はある、そんなことを確かに感じたツアーであった。

（猫子）

行く前は、「おしゃれな作りの大型書店」程度だと思っていましたが、雑貨や DVD など書籍以外も充実していて驚きました。店内の方は本好きのお屋敷をイメージしているとある通り、私もこんな場所で暮らせたらいいなと思える空間でした。書店員の間室さんの「対象を絞った書店（ないし作品）は逆に多くの人を引き付ける」というお話は聞いていて思わず頷いてしまいました。あと、２階のカフェのカレーが美味しかったのです。（薔薇龍）

初めて見学に参加したので、どのような見学が出来るかすごくワクワクしました。

代官山蔦屋書店に着き、その大きさにまず驚きました。店内を歩くと凄いという感想しか浮かばないほど自分の書店という概念を超えた書店でした。特に私は「書店というイメージではなく屋敷としてのコンセプト」という間室さんの説明が印象に残っています。確かに書店ではなく壁に包まれた一室のような空間。そして蛍光灯もなくその代わりにランプなどのオレンジ色が特徴的な照明を使っていて、本当に家にいるようなくつろげる感覚がしました。一時間という短いツアーでしたがとても楽しいツアーでした。（月兎）

10/3 新聞「Counter」第11号 発行

夏休み中に行われた代官山蔦屋書店への見学ツアーにて、本学卒業生のブックコンシェルジュ、間室道子さんとの出会いなど、今回も読み応え十分です。

日本美術館巡り

FILE3. 静岡市美術館

静岡駅から３分、2010 年に開館したばかりの美術館が、『静岡市美術館』。駅から地下道を通り、雨でも濡れずに行けるというステキなところだ。

現在公開中の展示『はじめての美術 絵本原画の世界 2013』は『ぐりとぐら』や『おおきなかぶ』などの有名な絵本の原画がたくさんの展示されており、とてもおススメ。～10 月 27 日まで。 （芸術学科４年　ぴぐめん）

【アクセス】JR 静岡駅北口より地下道を利用して約３分。東京駅より東海道新幹線で約１時間。
開館時間：10：00～19：00
観覧料：展覧会により異なる。上記の観覧料は一般800円、大学生600円。中学生以下は無料。交流ゾーン及びショップの利用は無料。

+MUSIC

Eternal Truth

真砂秀明／ウォン・ウィンツアン

今いる日常から離れたいときや、静かになりたいときに聴きたい１枚。

ネイティブフルートとピアノが織りなすメロディーは、聴く人を透明で美しい、静謐な空間に誘っていく。あえてジャンルを言うならアンビエント、とでも言おうか。

初めてこのアルバムを聴いたのは、池袋にある不思議なバーでだった。おいしいお酒とおつまみを楽しみながら音に包まれるのは至福のひとときだった。他にも CD が何枚か出ており、これをきっかけに探してみるのもおススメ。

（心理教育学科４年　猫子）

第10号から オススメの記事を抜粋

司書さんと呼ばれる日 番外編

和光大学表現学部教授
酒寄進一先生

「司書さんと呼ばれる日」、今回は番外編として和光大学教員で翻訳家の酒寄進一先生（以下Ｓ）に薔薇龍（以下Ｂ）がインタビューさせていただきました。

Ｂ：まず、読者の皆様に自己紹介をお願いします。

Ｓ：酒寄進一です。表現学部総合文化学科の教員で、専門がドイツ文化とドイツ文学です。

Ｂ：先生がドイツに興味を持ったきっかけは？

Ｓ：はじめ、父が英語の百科事典の販売を行っていて、そこから他言語に興味を持つようになったんだ。その後高校の頃、フランス帰りの校長先生にフランス語を教えてもらおうとして断られてしまい、〝それを当時の英語の先生に話したら、〝それならドイツ語を教えてやる〟と言われ二年生からドイツ語を教えてもらったのがきっかけだね。

Ｂ：なるほど。では、先生が知っている面白い本屋さんは？

Ｓ：ラルフ・イーザウさんの朗読会で行ったドイツのエッセンという町にある小さな本屋さんかな。そこでは店主が自分で読んで気に入ったモノしか売っていないんだけど、そこに行った時僕が一〇～二〇年くらい探していた本がそこにあって、これは買うしかないとレジに持って行ったんだ。そうしたら店主が僕、この本もう一回読みたいんだよって言って売ってくれなかったんだよ。

Ｂ：えぇ！それで、どうなったんですか？

Ｓ：後で送ると言われてから音沙汰がないんだ。でも、その時この本は売れないけど、申し訳ないからとサイン本を一冊貰ったんだよ。それが後に東京創元社で僕が最初に翻訳したミステリーになったんだよ。

Ｂ：普段は本を読んでいますか？

Ｓ：ここ二～三年はあまり読めなくなっているけれども、年一〇〇冊。内六～七割がドイツのモノかな？翻訳中は文体に影響されたり世界観に入り込めなくなるから、読めないんだよね。翻訳中はその準備のために読むことが多いかな。

Ｂ：先生は翻訳をされていますが、先生が物語を描くとしたらどんなモノを描きますか？

Ｓ：ファンタジーだね！ただ僕は研究者で物事を分析する頭が強いから、物語を作る欲求があまりないんだよね。それに翻訳をやっていると、〝この上手さは自分では表現できないな〟って思っちゃうわけ。

Ｂ：訳している作品には追いつけないと言う事ですか？

Ｓ：そう。超えられると思えば描いていると思うんだけど、〝これは敵わん〟と思い訳していて、そう思っているからこそ訳せるわけだから描けないんだよね。

Ｂ：では最後に、大学生の頃は、どんな勉強をしていましたか？

Ｓ：『グリム童話』を中心に民俗学や神話も勉強していたね。卒論は、グリムで三年生の時の一年間で読み込んで、〝三兄弟の話で何故三男は馬鹿なのに成功するのか〟で論じたの。結論は特になかったね。（笑）まぁ、昔話の一つのパターンだよねといったところかな？

Ｂ：本日は貴重なお時間を割いて頂きありがとうございます。

（総合文化学科４年　薔薇龍）

11/1 「ミステリー本棚」「挿絵本棚」公開

今回の本棚企画は、久し振りのダブル企画です。
読書の秋本番、ぜひご覧ください！

ミステリー本棚

世の中には、未だ解決・解明されていない謎が少なからず存在しています。

時に身近な物事に潜む、「不明瞭であるからこそ人を引き付ける魅力」をより多くの人に伝えたい、メンバー入魂の企画です。

挿絵本棚

「挿絵」は本来、本の内容を伝えやすくする「脇役」ですが、今回の企画では、そんな挿絵をメインに本棚を作ります。

童話はもちろん、西洋・東洋、宗教関係など、見ても楽しめる企画です。

1/9 「これが、わたしの歩む道 2013 本棚」公開

みなさんは、自分の専攻は決まっていますか？
これから決める人も、ただいま探求真っ只中の人も、ぜひ見ていただきたい本棚企画です。
以前も登場したこの企画、3 年の歳月を経てリバイバルです。専攻テーマとして決めた分野、「これが好きだ！」と決めて取っている講義の分野、所属の学科とは関係ないけれど興味のある分野など、LRP メンバー各人が選んだ本棚です。

3/7 第７回　選書ツアー

来年度入学する新入生のための選書ツアーを、学生メンバー７名、スタッフ３名の参加で実施しました。場所は紀伊國屋書店新宿本店です。今回も、学生は分野ごとのグループに分かれて選書。店内での選書後は、紀伊國屋書店のイベントスペースをお借りして、LRP おなじみの「プレゼン」を実施しました。「この本はここがオススメなんです！」「こういう本、図書館にあってもいいですよね。」選書ツアー独特のワクワクした気分が味わえます。さあ、これで新入生を迎える準備ができました。Welcome 新入生！

メンバーの感想

はじめての参加でドキドキしましたが、とても楽しく本を選ぶことができました。自分でもほしいと思っていた本がたくさんあり、選ぶのに苦労しましたが、本当に楽しい時間でした !!（月兎）

今日はとてもよかったです。お店に行く前に決めていた本を見つけた時の嬉しさと、店頭で「これいいなあ」と手に取りカゴに入れるのが、楽しかったです。（義経）

会場のインパクトもさることながら、白熱した議論が出来て有意義でした。（4410）

４年間皆勤参加させていただきました！　本と向き合う大切な時間。和光大学図書・情報館の楽しさを新入生に届けられればうれしいです。（はなか）

今年ももりあがってよかったです。（致遠）

最後の選書ツアー、例年通りじっくり議論できて良かったです。これが一番楽しい！　この楽しさをこれからも多くの学生に体験して欲しいと思います。（おっぽ）

今回で２回目となりますが、「新入生にこういうものをすすめたい」という視点で選書してみました。「この文を見てほしい」「この考えはいい」と思った本が見つかってよかったと思います。（AW）

ビブリオバトル 2013

BIBLIO BATTLE

2013 年度も LRP では、ビブリオバトルをフリー閲覧コーナーで開催しました。今年度は大学祭に、そして月一回は開催できるように心がけて企画しました。その結果、全５回実施できました。

紹介された本はオーソドックスに小説やエッセイから、人文書に美術書、就活本やスピーチ術のハウツー本までとバラエティ豊かにそろいました。バトラー（紹介者）の発表方法もさまざまで、本への愛情を熱く語る人や内容の一部を朗読したりする人、自分がその本と出会ってどう変わったかなどのエピソードを語る人もいます。

このビブリオバトルはプレゼンする本を観戦者たちに「どれだけ読ませたくするか」、に比重をおいています。とはいっても、チャンプ本をとる＝優勝することが全てではないのです。ただ自分の好みだけを追求するのでは、相手に伝わらない場合が多いのです。いかに自分の嗜好と発表する場の空気を天秤にかけ、バランスをとる必要のある状況が必ずといっていい程でてきます。つまりもう一人の主役は観戦者なのです。

2014 年度も LRP はビブリオバトルを定期的に開催する予定です。ぜひ皆さんもふるってご参加ください。まずは観戦からでも結構、バトラーへの飛び入り参加も歓迎いたします。　（総合文化学科２年 グリズリー）

ビブリオバトル大まかなルール

①「これが好き！」、「これを読んでほしい！」というお気に入りの本を持って集まる。（大会によってはテーマを設けることがあります。たとえば「科学」、「きのこ」など）
②プレゼンタイム。１人持ち時間５分で本を紹介します。
③質問タイム。２～３分で観戦者との質疑応答を行います。
④②と③から「どの本が読みたくなったか」で投票を行い、その大会での「チャンプ本」を決定します。

【ビブリオバトル公式サイト】
http://www.bibliobattle.jp/

番外編

Pick Up Book

新聞「Counter」でおなじみ、LRP メンバーおすすめの本を紹介する Pick Up Book。
今年も番外編として登場です。メンバーそれぞれのコメントと併せてお楽しみください。

『ペツェッティーノ ―じぶんをみつけたぶぶんひんのはなし』

レオ＝レオニ　谷川俊太郎訳／好学社／32p

スイミーで有名なレオ＝レオニの作品。自分は「とるに足らない何かの部分品に違いない」と思い、誰の部分品なのかを聞いて回りに出かける。旅をするうちにこなごなになってしまうが、自身も部分品が集まってできていることがわかる。前向きな主人公の気持ちが、表情がついていない絵からでもじんじんと伝わってくる。先日、レオニの原画展に行ってきた際にあった作品のひとつで、即購入を決めた。話のみならず、独特な紙が使われた絵にも注目していただきたい。短い話ながら、不安と解決をするどく描いている。　（芸術学科４年　ぴぐめん）

『福田尚代 初期回文集「無言寺の僧 言追い牡蠣」』

福田尚代／キャラバン書籍部／249p

回文とは、頭から読んでも、逆さから読んでも 同じ音読みになる文章のことである。身近で似たところだと、「トマト」や「しんぶんし」だ。これらは文ではなく単語だが、この書籍では福田尚代が書きためた見事な回文が詰まっている。どう頭を柔らかくすれば、このような回文が思いつくのだろうか。また、彼女は作品を制作する現代美術家でもある。その作品たちも見ることがあれば、彼女の回文の不可思議さも納得することだろう。現代の美術に色を添えている作家の回文をぜひ、ご覧いただきたい。　（芸術学科４年　夕陽）

『終活ファッションショー』 安田依央／集英社／255p

司法書士の市絵（いちえ）が、ひょんなきっかけから「人生の終わりに着る＝葬式の時に着たい服」の「ファッションショー」を開く…というお話です。著者自身が現役の司法書士であるだけあって、間に挟まれるお葬式のトラブルはどれもリアルで勉強になります。葬式時に問題になることのほとんどは、普段から「死」をタブー視し、「自分が死んだらどうするか」ということについて話していないことから来るのではないか…と思わずにはいられません。自分が「どんな終わり方をしたいか」を「着たい服」から考える視点が斬新です。　（心理教育学科４年　猫子）

『マンガで気づく日本人でも知らない日本語：えっ？これって方言なの!?』

主婦の友インフォス情報社編　篠崎晃一監修　みちのく絵／主婦の友社／159p

関東弁、関西弁、東北弁、九州弁…地方語のことを貴方はどれくらい知っているでしょうか？「絆創膏」を「キズテープ」「カットバン」「サビオ」って呼ぶ地域はどこ？「タイヨーシ」「ガンピ」「ヒロヨーシ」「トリノコヨーシ」…みんな同じものを指すけど、これって一体何？「青なじみ」って「幼なじみ」の親戚？「まつぼっくり」って実は方言！…それじゃあ標準語でなんて名前？東京の大学を舞台に、地方出身学生の会話から聞いたことのない言葉がたくさん登場。かわいいイラストとともに日本の方言をご紹介する豆知識コミックエッセイ♪　（総合文化学科４年　はなか）

『おかしな本棚』 クラフト・エヴィング商會／朝日新聞出版／173p

物語作家・吉田篤弘が所属するクラフト・エヴィング商會が贈る一風変わった本棚集。「金曜日の夜の本棚」「見知らぬ本棚」「波打ち際の本棚」…等々。タイトルだけじゃどんな本かわからないですよね。とにかく「○○な本棚」が続く「本棚の本」です。装丁家でもある篤弘さんの本を「読む」ではなく「観る」ものとして扱うことに主眼を置いたこの作品は、「本を買って帰る最中」や「買った本を棚に並べる最中」が実は一番楽しい時間なんじゃないかって思える（積本の言い訳…）そんな作品です。

（総合文化学科４年　おつぼ）

『ネコのミヌース』 アニー・M・G・シュミット著　西村由美訳／徳間書店／245p

新聞記者をしているティベは、内向的な性格のために良い記事が書けずにクビ寸前！そんな彼の前に、ミヌースという女の子が現れる。しかも、彼女は人間ではなく、ネコ?! なぜミヌースは人間になってしまったのか、ティベはこのままクビになってしまうのか…。登場するネコたちも可愛らしく、読んだらネコと話してみたくなる一冊。映画化もしているので、そちらもぜひ。（芸術学科３年　冬夜）

『十角館の殺人』 綾辻行人／講談社文庫／375p

物語は、隔絶された孤島に若者が７人訪れるところから始まる。そして、その島にある奇妙な建物「十角館」で彼らを待ち受けていたのは、連続殺人の毒牙であった。よくある「孤島」ものではあるのだが、犯人のトリックと、ヒントを与えながらも答えには簡単にたどり着かせない巧妙な伏線が非常に魅力的な作品だ。本のページを進めれば進めるほど、引き込まれていく感覚に心が躍る。

（総合文化学科３年　ダニエル）

『黄金宮殿』（深夜特急　第１便） 沢木耕太郎／新潮社／314p

旅と人生は似ている（同シリーズ<第三便>より抜粋）。この人は 28 歳の時にデリーからシルクロードを通り、ロンドンまでをバスで行くという無謀な旅に出た。この作品はその旅の三巻中の一冊目。日本を出て間もないころで、感受性豊かに旅を楽しんでいる。海外への旅に興味のある人にぜひ、お勧めの本。

（経済学科３年　義経）

『ヴァレリア・ファイル（上・下）』 谷甲州／中央公論新社／上巻 445p、下巻 453p

今や日本を代表するハード SF 作家となった谷甲州がひっそりと書いていた、近未来サイバーパンクアクション小説。初版が黎明期の角川スニーカー文庫から出ている事からもわかる通り、内容は谷甲州としては派手（つまりやや地味）となっているが、中央公論社から出た復刻版では士郎正宗が美しい挿絵で彩りを添えている。しかし谷甲州、無人兵器を書かせるとうまいということは知っていたが、まさかこれほどの萌えキャラが書けるとは思わなかった。このような何でも書ける師匠を持った森岡浩之や林譲治は、不幸なのか幸福なのか。

（総合文化学科３年　到遠）

『ツァラトゥストラはこう言った（上・下）』

ニーチェ著　氷上英廣訳／岩波書店／上巻 275p、下巻 365p

数あるツァラトゥストラの邦訳本の中でこの版を推奨するのは、二つ理由がある。訳者自身があとがきで述べているように、他の翻訳では訳注が多くはさまれていて読み辛い。この版は訳注をほかの版に任せて通読のしやすさに重点を置いていることがまず一点。ツァラトゥストラに限らず邦訳書では原点の持つリズムや語感で表現される部分を読み切れないと感じることがあるだろう。そういった不満への配慮も訳者は忘れない。それがどういった工夫なのかはぜひ手に取って直に感じて欲しい次第である。

（総合文化学科２年　4410）

『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。（上・下）』

岡田麿里／メディアファクトリー／上巻 201p、下巻 220p

昔、亡くなってしまった幼馴染の少女が突然少年のもとに帰ってきました。その少女のことが見えるのは少年だけ。少女は少年にかつての幼馴染たちと一緒にお願いを叶えて欲しいと言い、少年は少女のために行動を起こします。再び集まった幼馴染たちと色々なことを試しますが、上手くいきません。それぱかりか、みんなの胸の中には当時少女が亡くなってしまった時のことが深い傷になって残っていました。そして終盤になって明かされる少女のお願いは想像もしてなかったことで…涙せずにはいられないストーリーです。

（芸術学科２年　わさび）

『ドラゴンキーパー 最後の宮廷龍』

キャロル・ウィルキンソン作　もきかずこ訳／金の星社／429p

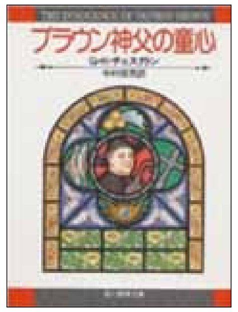
舞台は漢王朝時代の中国。名前を持たない奴隷の少女が宮廷で飼われていた龍の生き残りとともに旅をする話です。龍が旅の友というと頼もしい感じですが、この龍実際は老いていて力が弱く、おまけに頑固。東洋の龍の例に洩れず弱点だらけな上に冒頭で空を飛べなくなるアクシデントに見舞われると言う前途多難な状況での旅を少女は強いられます。この作品は３巻完結のシリーズ本ですが、１巻だけでも十分に楽しめる作品になっております。

（総合文化学科４年　薔薇龍）

『TOKYO 大学博物館ガイド』 大坪覚／ブルース・インターアクションズ／127p

大学博物館は、在校生や卒業生に限らず、誰が訪れてもよいのである。　（総合文化学科２年　AW）

『ブラウン神父の童心』 G.K. チェスタトン著　中村保男訳／東京創元社／356p



丸い童顔、小柄なからだにあわない大きな帽子と蝙蝠傘。こんな姿をしている名探偵は、おそらくこの人だけであろう。そう、ブラウン神父である。今作は、ブラウン神父シリーズの一冊目である。白眉なのは、「秘密の庭」だ。この短編内のトリックの妙さは最後になるまで解らない。ぜひこの神父の説教を受けてみてはいかがだろう。

（総合文化学科２年　グリズリー）

『黒猫』 エドガー・アラン・ポー原作　大林清訳／偕成社／307p

探偵小説の前提を打ち破った『モルグ街の殺人』をはじめ、綿密な構築の元に描かれた暗号が読者を引き込む『黄金虫』など、ポーの才が光る作品が目白押しの一本。おどろおどろしくもどこか魅惑的なポーの世界へと誘います。

（総合文化学科３年　ひよこ）

『本当は恐ろしいグリム童話』 桐生操／KK ベストセラーズ／223p

白雪姫からシンデレラ。私たちが知っている童話とは違う、真実の童話を題材に、物語が書かれています。オリジナルのグリム童話を題材としているのでグロテスクな表現などがありますが、とても面白いです。

（総合文化学科１年　月兎）

LRP profile 2013

【所属学科】総合文化学科
【学　　年】４年
【P.N】鉄太さん
【好きな本】
『お伽草子』太宰治『学生時代』久米正雄
【趣味（読書以外）】縫い物／工作／犬の散歩
【好きな本屋（古本屋含む）】雑食
【好きな授業（理由）】近代都市空間と小説言語
【かなえたい夢】立身出世。故郷に錦を飾る。

【所属学科】心理教育学科
【学　　年】４年
【P.N】猫子
【好きな本】『HAPPY VICTIMS　着倒れ方丈記』都築響一／『Advanced Style ニューヨークで見つけた上級者のおしゃれスナップ』アリ・セス・コーエン／『堕落部屋』川本史織
【（読書以外の）趣味】音楽（特に洋楽！ tvk の billboardTop40 は神。音楽フェスも大好きです！）、映画（毎年アカデミー賞授賞式見ながらいろいろ突っ込むのが好きです）、着物（着ます。まだまだ勉強中…）
【好きな本屋（古本屋含む）】駒沢の SNOW SHOVELING ！また行きたい！
【好きな授業（その理由）】「アジアの身体」（日本舞踊を学ぶ授業です。浴衣の着付けから作法まで、ずいぶんと勉強になりました）
【かなえたい夢】バートン版の『千夜一夜物語』や、『マハーバーラタ』あたりの大著を読破すること。

【所属学科】芸術学科
【学　　年】４年
【P.N】ぴぐめん
【好きな本】『とんぼとり』長谷川集平
【趣味（読書以外）】アナログゲーム
【好きな本屋（古本屋含む）】百町森
【好きな授業（理由）】生活の中のデザインＢ（デザインの理由を知ることができるので）
【かなえたい夢】年末ジャンボ当選

【所属学科】芸術学科
【学　　年】４年
【P.N】夕陽
【好きな本】『あしたもあそぼうね』『手で作る本』『風が強く吹いている』『死神の精度』
【趣味（読書以外）】ゲーム、製菓、神社仏閣巡り
【好きな本屋（古本屋含む）】TSUTAYA 馬事公苑店
【好きな授業（理由）】ヴィジュアル・アートゼミ（教授を始めとしたみんなが話しやすい雰囲気で居心地がよく、授業内容が勉強になることばかりで楽しいです。）
【かなえたい夢】いつかアフタヌーンティーセットで優雅にお茶をしてみたい。

【所属学科】総合文化学科
【学　　年】４年（未だ下級生に間違われる…。）
【P.N】はなか
【好きな本】
宮沢賢治、川上弘美、よしもとばなな、瀧羽麻子
【趣味（読書以外）】
柔道、和太鼓、書道、友達のモノマネ
【好きな本屋（古本屋含む）】
吉祥寺トムズボックス・神保町東京堂書店
【好きな授業（理由）】司書教論の授業（教員と司書、両方の学習です。大学生活の道標になりました。）
【かなえたい夢】素敵なおばあちゃんになること。

【所属学科】総合文化学科
【学　　年】４年
【P.N】おっぽ
【好きな本】クラフト・エヴィング商會および吉田篤弘さん作品。装丁も言葉のセンスも素敵です！
【趣味（読書以外）】夜の散歩。低予算旅行。ローカル番組。
【好きな本屋（古本屋含む）】くまざわ書店橋本店。近所で一番大きな本屋さんです。
【好きな授業（理由）】福祉社会学（福祉＝好ましい。という当たり前を疑う思考が身に付きます）、現代逸脱論（犯罪研究を時系列的に学べます）、セクシュアリティをめぐる諸問題Ｂ（先生が学生の素朴な感想や疑問を一つ一つ丁寧に取り上げてくれます）
【かなえたい夢】（自堕落極まりない生活を送っているので…）目下の目標は自己を律することが出来る大人になること。

【所属学科】芸術学科
【学　　年】３年
【P.N】冬夜
【好きな本】『新学期』『月の船でゆく』『民子』『星のカービィ：あぶないグルメ屋敷？!、の … 巻』
【趣味（読書以外）】徹夜で泣きながら課題やレポートをすること、ゲーム、ウィンドウネットショッピング。
【好きな本屋（古本屋含む）】LIBRO（好きだった店舗は潰れてしまいましたけど…）
【好きな授業（理由）】恋愛と結婚の心理学（恋愛にくだらぬ幻想を持つ前に、この授業）
【かなえたい夢】無機物になる（水素を希望）

【所属学科】総合文化学科
【学　　年】３年
【P.N】ダニエル
【好きな本】『陽だまりの彼女』越谷オサム
【趣味（読書以外）】ゲーム、こたつ
【好きな本屋（古本屋含む）】丸善（多摩センター店）
【好きな授業（理由）】青年心理学（何のために大学に来ているのかを思い出せる。）
【かなえたい夢】苦手に対しても努力できる人間になりたい

【所属学科】経済学科
【学　　年】３年
【P.N】義経
【好きな本】『泣く大人』『泣かない子供』江國香織／『悪の教典』貴志祐介
【趣味（読書以外）】旅行、映画鑑賞
【好きな本屋（古本屋含む）】啓文堂京王八王子店
【好きな授業（理由）】開発経済学…グループワークが多く、みんなで考えながら授業を受けられたので、楽しかったです。授業の内容はチョコやエビの生産現場についてで、それらをおいしく食べたい人にはお勧めしません。その授業を聞いてからチョコを食べられなくなった人を知っています。
【かなえたい夢】リュック一つで、世界一周の旅。

LRP profile 2013

【所属学科】総合文化学科
【学　　年】3年

【P.N】致遠

【好きな本】『三菱航空エンジン史　1915-1945　大正六年より昭和まで』 松岡久光著 中西正義監修
【趣味（読書以外）】ぐうたらすること
【好きな本屋（古本屋含む）】ツヅキ堂書店（鶴川店が潰れてショックを受けている）
【好きな授業（理由）】「英語M５」定刻が過ぎても席が埋まらない限りバスを発車させない。そんなインド式合理主義に基づいた授業が展開されます。意外と力がつくのでお勧めです。
【かなえたい夢】周囲に気がかりなことが何もなく、自分が目標に向かって驀進できる状態に持ち込む。それ自体が夢。

【所属学科】総合文化学科
【学　　年】2年

【P.N】4410

【好きな本】『1984年』
【趣味（読書以外）】ゲーム
【好きな本屋（古本屋含む）】ジュンク堂池袋本店
【好きな授業（理由）】思想と表現（常に新たな学問間のリンクを提示してくれるから）
【かなえたい夢】無意味な生を肯定すること

【所属学科】芸術学科
【学　　年】2年

【P.N】わさび

【好きな本】『図書館戦争』『ロストシンボル』『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。』
【趣味（読書以外）】寝ること、音楽動画鑑賞、ゲーム
【好きな本屋（古本屋含む）】あおい書店
【好きな授業（理由）】現代絵画研究（先生が優しい、様々な技法の絵が描ける）
【かなえたい夢】布団と結婚する。

【所属学科】総合文化学科
【学　　年】2年

【P.N】にんじん

【好きな本】乙一
【趣味（読書以外）】PSP楽しい
【好きな本屋（古本屋含む）】板橋にある本屋。その看板が好き。
【好きな授業（理由）】金魚が出てくる授業（テンションが上がるから）
【かなえたい夢】虫など怖くない。と素手で鷲掴むこと。けれど虫は気持ち悪いから無理だ。

【所属学科】芸術学科
【学　　年】2年

【P.N】セーラ

【好きな本】ケッチャム作品
【趣味（読書以外）】音楽、映画（批評をみるのも好き）、考え事
【好きな本屋（古本屋含む）】とくに無し
【好きな授業（理由）】単位を取りやすい授業
【かなえたい夢】かなえたい夢をもつこと

【所属学科】総合文化学科
【学　　年】4年

【P.N】薔薇龍

【好きな本】『龍のすむ家』クリス・ダレーシー／『狐笛のかなた』上橋菜穂子
【趣味（読書以外）】音楽鑑賞、犬猫科動物とドラゴンのグッズ収集、創作（小説、絵描きなど）
【好きな本屋（古本屋含む）】紀伊国屋書店新宿南店
【好きな授業（理由）】酒寄先生「ドイツの文化と歴史（ゼミ）」（小説を描く上で押さえておきたいことを、たくさん知ることができる）
【かなえたい夢】ファンタジー作品に登場する図書館みたいな家（部屋）に住みたい。

【所属学科】総合文化学科
【学　　年】2年

【P.N】AW

【好きな本】『のぼうの城』
【趣味】音楽をきく、博物館・美術館
【好きな本屋】長谷川書店
【好きな授業】デザイン特別講義（デザイン関係に興味がある、その仕事の内容も学べる）
【かなえたい夢】学芸員

【所属学科】総合文化学科
【学　　年】2年

【P.N】グリズリー

【好きな本】『歌行燈』泉鏡花／『盲獣』江戸川乱歩／『妖人奇人館』澁澤龍彦、その他、妖怪関連本
【趣味（読書以外）】音楽（ジャズ、メタル）、美術（ルネサンス～前期印象派）鑑賞
【好きな本屋（古本屋含む）】最近は古本市ばかり行っています。強いて言うなら中央線沿線の古本屋さん。
【好きな授業（理由）】ことばの歴史１（先生の独特のリズムがしっくりくる）
【かなえたい夢】自分が納得できる論文を書くこと。

【所属学科】総合文化学科
【学　　年】3年

【P.N】ひよこ

【好きな本】哲学書全般
【趣味（読書以外）】料理、洋画・海外ドラマ浸り
【好きな本屋（古本屋含む）】有隣堂書店
【好きな授業（理由）】メディア論（哲学的な問題が隠れているため）
【かなえたい夢】とりあえず、ひよこになること（・8・）

【所属学科】総合文化学科
【学　　年】1年

【P.N】月兎

【好きな本】グリム童話などのお伽噺。ギリシャ神話。ライトノベル。漫画
【趣味（読書以外）】小説を書くことが好きで、暇なときに書いてます。
【好きな本屋（古本屋含む）】ブックオフ（いつも使わせていただいております）
【好きな授業（理由）】ギリシャ神話の授業です。元々、ギリシャ神話が大好きだったのでめくるめく神話の世界を堪能しております。
【かなえたい夢】編集者になるのが夢です。本が好きなので、本に携わる仕事に就きたいと思っています。

今年を振り返って LRPメンバーの声

とても楽しい４年間でした。こんな素晴らしい日々がいつまでも続けばな、なんて思ったりもします。長いような短いようなそんなＬＲＰでの時間ですね。
（総合文化学科４年　原稿中）

ほぼ幽霊やってましたすみません…。中心になって活動されてきた先輩方が卒業されるので、後輩達が頑張ってくれると信じています。幽霊ですが、ささやかながら応援しております。
（芸術学科３年　冬夜）

この１年就活、卒制に追われ LRP の活動がほとんどできなかったのが残念…。みんなともっとお話したかったです。そして、４年間大学の中で居場所をつくってくれた LRP メンバーに感謝しています。ありがとう。
（芸術学科４年　夕陽）

卒論を抱えていたので、あまり LRP の活動に参加はできませんでした。今年は企画数も少なくて、なんだかさみしかったです。学生の力でやっていく活動の難しさを感じました。今後も、本について話せる楽しい場所でありますように。
（心理教育学科４年　猫子）

今年も今まで通り LRP ルームでだらだら過ごさせていただきました。いつ来てもこの空間とメンバーは変わらず、大学生活の心のよりどころです。寂しくなるけれど、いつかは別れがくるもので。みんな、あとは頼んだ！
（総合文化学科４年　おっぽ）

今年は仕事を後進に任せ、楽隠居をしよう、と思っておりました。しかし蓋を開けてみると、なんだかんだ言いつつ色々働いてしまい、後輩の仕事を奪ってしまった気がします。深く反省しております。
（総合文化学科３年　到遠）

教育実習、卒業論文、就職活動…。あまり活動に携われずごめんなさい。４年生の忙しさに苦しみながらも楽しく過ごせた１年間でした。私を頑張らせてくれたＬＲＰに感謝。
（総合文化学科４年　はなか）

今年も色々と楽しい活動がありましたが、何と言っても一番は夏休みの蔦屋書店見学ツアー。普段から気になっていた書店の裏側や書店員さんの貴重なお話に触れることができました。
（総合文化学科４年　薔薇龍）

今年はほぼまったく活動に参加することができなかった。メンバーには本当に申し訳ない。ラスト１年少しでも貢献できるように頑張りたいと思う（願望）
（総合文化学科３年　ダニエル）

今年は中々活動に参加できませんでしたが、自分が参加できた LRP の活動で一番印象に残っているのは夏休みに行った「蔦谷書店見学ツアー」です。書店とは思えないような広々とした居心地のいい場所でした。
（経済学科３年　義経）

今年は改めて現４年生のこれまで偉大さを知り、LRP の活動が停滞していくのを痛感した。来年度は個の力もそうだが、メンバー同士が企画を出し合い、議論ができるような場をつくるように心がけたい。
（総合文化学科２年　グリズリー）

積極的に企画へ参加することはありませんでしたが、与えられた役割はそれなりにこなし、組織内で活動する体験ができたことが私にとって有意義でした。学年末の選書ツアーを楽しみにしています。
（総合文化学科２年　4410）

LRP の活動について２年の終わりになってようやく理解しました。これからは LRP って何？と聞かれたらすらすら答えられると思う。前年と同じく来年も企画には参加するようにしたい。
（芸術学科２年　セーラ）

３年次生になって初めて所属した団体が LRP で、本当に幸せでした。今年は忙しさに駆り立てられながらも、本棚企画をひとつお任せいただけて、とても貴重な体験ができました。これからも、部員一人一人の個性を磨きあい、高めあえる LRP でありつづけたいですね。（総合文化学科３年　ひよこ）

LRP に入ってから、ずーっと憧れてた新入生歓迎本棚の選書が、今年出来たことなど、昨年とはまた違った体験が出来て楽しかったです。来年はもう少し積極的に本棚企画などを出していきたいと思います。
（芸術学科２年　わさび）

今年は司会などをさせていただいたり等初めてのことが多く、最初は不安でしたが、ほかのメンバーの協力もありどうにか無事に１年を終えることができました。
（総合文化学科２年　AW）

この一年で一番思い出に残っているものは夏休みに行った蔦屋書店の見学ツアーです。お店のコンセプトから内部の構造など、とても興味深い話が聞けたと思います。
（総合文化学科１年　月兎）

そうですね、今年は数多く企画に参加できませんでした。来年はもっと積極的に参加、出来るのでしょうか。未来のことはわかりません。でも、何かしら紛れ込んでいけるように頑張ろうと、そう感じた一年でした。
（総合文化学科２年　にんじん）